

令和5年度（2023年度）第3回東海市環境基本計画推進委員会
次第



日 時 令和5年（2023年）
12月22日（金）午前10時から
場 所 市役所501会議室

1 委員長挨拶

2 報告事項

(1) 前回議事録について

(2) 令和5年度版年次報告書について
資料1

3 協議事項

(1) 東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行管理について
資料2

(2) 第3次環境基本計画について
資料3

4 その他

令和5年度（2023年度）第2回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日時 令和5年（2023年）8月23日（水）10時～11時30分
- 2 場所 102会議室
- 3 出席者 近藤 高史、山本 隆明、吉原 雅哉、武富 時満、寺島 賀子、早川 権
慈、南川 陸夫、毛利 まり子、龍田 昭一、森岡 良枝、吉鶴 弥生、田中
治幸、千頭 聡アドバイザー（委員12名、アドバイザー1名、敬称略）
清掃センター課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課主任、生活
環境課主事、清掃センター主事（事務局5名）
- 4 欠席者 牲川 順一、加古 博之、榊原 弘之（3名）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) あいさつ

山本委員長よりあいさつをした。

(2) 説明事項

令和5年度（2023年度）の年間スケジュール及び前回会議の議事録について、事務局より資料を用いて説明をおこなった。委員からの意見等はなし。

(3) 協議事項

事務局より資料を用いて説明を行った。委員からの意見等はなし。

(4) 年次報告書の検討について

令和4年度事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価並びに令和5年度以降の取り組み方針について事務局より資料を用いて説明を行った。

部会に分かれて議論し、その内容について、全体会で各部会長より概要を報告した。

ア 社会環境部会（寺島部会長）

㍑ 環境の柱1

指標1について、エコスクールの参加者数の増加理由に講座開催数が増えたことがあるため、今後もエコスクールの講座開催数を増やすのであれば、社会環境部会に関する講座も増やしていくと良いと思う。

㍑ 環境の柱2

指標3及び指標4について、降下ばいじんの数値が下がっているとしても人によって感じ方が異なるため、指標に成果が表れにくく評価が難しくなっていると思う。

令和4年度に、事業所の降下ばいじん対策について、広報やホームページで紹介する内容を充実したため、令和5年度以降も継続する必要があると思う。

イ 生活環境部会（吉原部会長）

㍿ 環境の柱1

指標1について、エコスクール参加者数を指標としているが、開催講座数の増加に伴い参加者数は増えるため、今後は、エコスクールに参加したことでSNS等を通じた情報発信や環境に関するイベントに参加した環境に関わる行動をした等、次の行動に繋がったかどうかを指標にできると良いと思う。また、エコスクールも始まってから年月が経っているので、時機を見てこれまでの活動をまとめた報告書のようなものを作ってはどうかと意見があった。

指標2について、「東海なび」のダウンロード数は増えているが閲覧数は横ばい傾向であるため、他に様々な情報媒体がある中での位置づけ等について見直してはどうかと意見があった。

㍿ 環境の柱3

指標10について、太陽光パネルの設置数を増やすことは良いが、近年自然災害により設置に瑕疵があり第三者に影響を及ぼすことが想定されるため、安全対策への配慮を検討すると良い。

指標11について、らんらんバスの年間利用者を増やすことは良いが、成果の分析が浅いのではないかという意見があった。

指標12について、ポイ捨てが目立つと感じる市民は約50%となっており少なくなっているが、場所によってはポイ捨てが多い場所もあり、実際には増えているのではないかという意見があった。感じる割合ということで感覚による評価であるため、客観的に評価できる指標に見直してはどうか。

指標16について、都市公園面積が増える予定がない中で、増やすことを目標としていることが消極的な目標設定になっているため、見直したほうが良い。

ウ 廃棄物・リサイクル部会（事務局）

㍿ 環境の柱1

指標1について、参加申し込みをWEBでもできるようにしたことが効果的で良かった。また、抽選に落ちてしまった人へのフォローアップとして、同じ講座を2回行う等の機会を設ける必要があるのではないかと意見があった。

㍿ 環境の柱4

ごみの減量の啓発について、広報や情報媒体等の活用だけでなく、例えばイベン

トで水切りの実演を行い見てもらうことで、ごみの減量の実践方法が分かるのではないかと意見があった。また、ごみ袋のデザインを周期的に見直すことで、ごみ削減の方法を広く周知することができるのではないかと意見があった。

令和5年度以降の取り組み方針について、児童を対象とした環境学習を検討すると記載しており、対象とした環境学習が今実践されていないと見えてしまうため、例えば環境学習を充実させると表現してはどうかと意見があった。

エ 千頭アドバイザー意見

現在の計画が来年度までとなっており、新しい計画について策定作業を進めていくこととなりますが、現在の計画でどのような議論をしてきたかを、1年ごとだけではなく、計画期間中の毎年の評価を確認した上で、全体の評価をすることが必要だと思う。

(6) その他

事務局より今後の推進委員会のスケジュールについて説明を行った。

(案)

令和5年度（2023年度）版
環境基本計画年次報告書

～東海市の環境の現状と施策の展開～



東 海 市

令和6年（2024年） 月

目 次

成果指標の評価

1	重点プロジェクト「環境教育」の実施状況	1
2	成果指標評価表	
柱1	環境教育	
・ 分野1	環境教育	2
柱2	環境対策	
・ 分野2	大気・ばいじん	4
・ 分野3	悪臭・騒音	5
・ 分野4	水質	6
柱3	環境保全・再生・創造	
・ 分野5	地球温暖化対策	8
・ 分野6	環境美化	9
・ 分野7	緑・水・生き物	11
柱4	循環型社会	
・ 分野8	3R活動	13
・ 分野9	適正排出・処分	15

参考資料

1	環境基本計画の概要	17
2	環境の柱ごとの基本的な施策	19
3	成果指標の算出方法	21
4	成果指標一覧表	23
5	計画推進の検討過程	25
6	環境基本計画推進委員会委員名簿	26

成果指標の評価

1. 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況

(1) エコスクール

エコスクールは、新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和3年度（2021年度）に引き続き一部講座の中止及び定員制限は行ったものの、感染症対策を徹底し開催に取り組んだ結果、実施講座は29講座（対前年度6講座増）となり、参加者数も946人（対前年度195人増）となりました。

地球温暖化対策の啓発推進のため、企業と協働して、「電気自動車のモデルカーを使用した実験講座」や「ソーラーライトを使用した学習講座」を新規実施したところ、多数の申込をいただき、実施後のアンケートも高い満足度となりました。

(2) 環境イベントによるきっかけづくりと仲間づくり

東海秋まつりにおいて環境ひろばを開催し、王滝村のヒノキ、市内で採取したどんぐり等を使用した自然工作を実施し、当初想定した64人を上回る81人が参加しました。また、自然工作の隣で、動物愛護センターと協力して啓発グッズの配布及び地域ねこ活動の説明を実施し、多くの来場者に対し地域ねこ活動の啓発を行いました。

(3) ふるさと再生を目指して ～いきものの生息空間の保全・再生～

ア 加木屋緑地において、「21世紀の森づくり事業」で市民植樹した在来種の樹木の育成管理に努めている他、オニヤンマ、メダカ、ヘイケボタル、アサギマダラ等の生息環境の確保のため、ビオトープの保全、再生に取り組みました。

イ 生物多様性の保全の観点から、新宝町におけるアルゼンチンアリの駆除を毎月実施するとともに、市に広く分布するオオキンケイギクの駆除に関して、コミュニティを通じての啓発及び広報への記事掲載やパンフレットの配布による啓発に取り組みました。

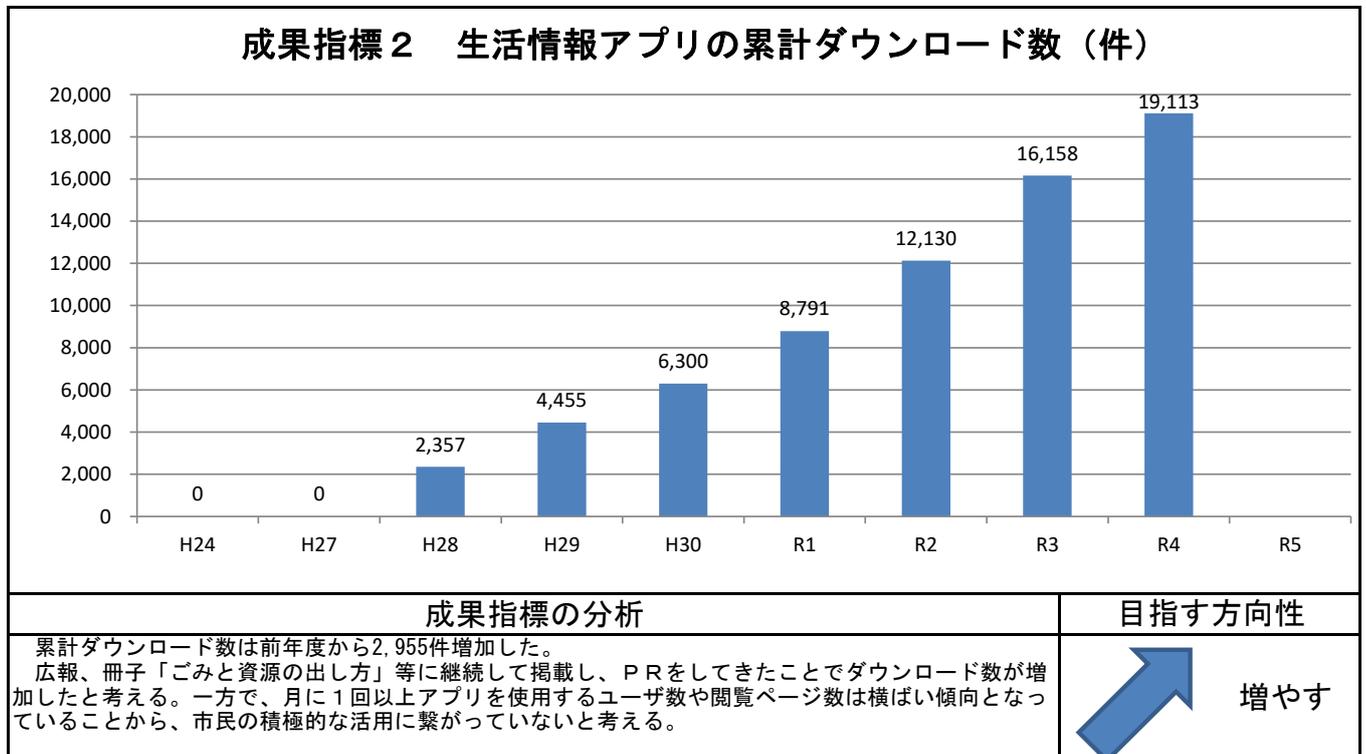
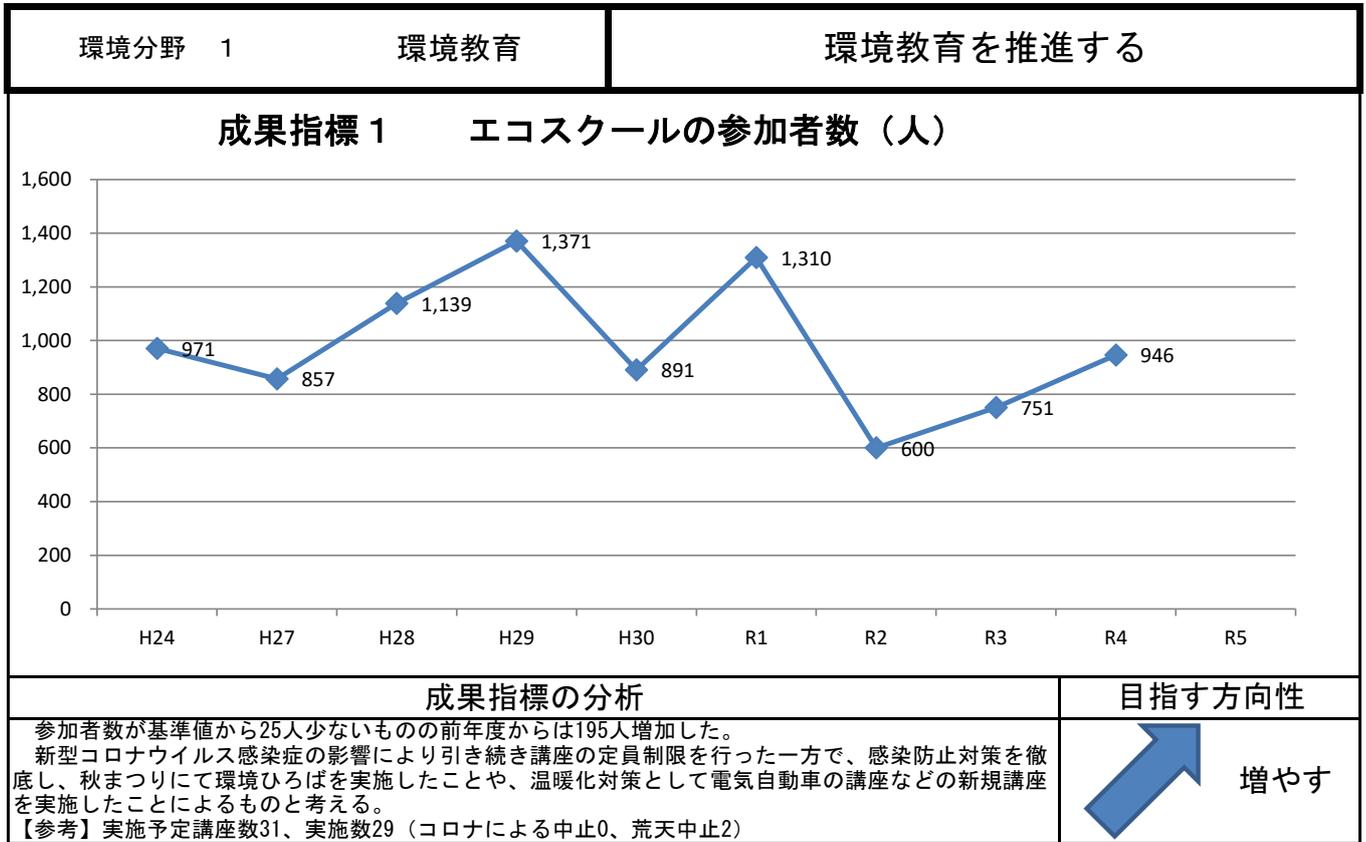
(4) 生活情報アプリなどによる情報提供

エコスクールの申込は、これまで電話による先着順方式が中心でしたが、WEB申込の仕組みを導入するとともに、エコスクールに係るホームページの内容を整理し検索性の向上や説明内容を充実させました。WEB申込を実施した講座では、定員を上回る応募（電気自動車のモデルカーで実験しよう：2.6倍、電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり：1.6倍）があり、参加者の申込に係る情報入手性及び利便性の向上が図られたと考えています。

2 成果指標評価表

基準値はH24数値。目指す方向性の欄は、めざそう値(R5の数値)がある場合はその数値を記載し、めざそう値がない場合は矢印で方向性を示すもの

環境の柱 1 環境教育



1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底してエコスクールを実施し、参加者数の増加に努めるとともに、アンケートによる満足度等の把握に努め分析をすることで、ニーズを捉え、より良い講座を開催していく。
- ・エコスクールの申込をWEBから受付できるようにして参加希望者の利便性を向上させるなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）を環境学習にも活用していく。
- ・SDGsやゼロカーボンシティなどを含めた環境学習全般について、ホームページや広報等の情報発信媒体を活用し、より一層の啓発を進める。
- ・令和5年度（2023年度）に市域全体の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定を予定していることを踏まえて、地球温暖化に係るエコスクール講座を充実させる。
- ・公園等を活用したエコスクールや、地域清掃の若年層への意識づけとしての学校等への出前授業など、指標の向上に繋がる様々な環境学習を検討していく。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）エコスクール開催補助事業

市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助を行った。

(1) 実施講座数

29講座

(2) 参加者数

946人

●（継続）3R活動啓発事業

スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した（発信情報：イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等）

【改善点等】

●（新規）WEB申し込みを「電気自動車のモデルカーで実験しよう」及び「電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり」で導入し、参加者の利便性の向上を図った。また、以下のとおり定員を大きく上回る応募があった。

【講座別申し込み状況】

(1) 電気自動車のモデルカーで実験しよう

定員：8組 応募数：21組 倍率：2.6倍

(2) 電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり

定員：10組 応募数：16組 倍率：1.6倍

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標1（エコスクールの参加者数）について、エコスクールの参加者数が順調に増加しているため、引き続きより多くの市民に参加してもらえるように講座開催数の増加や講座内容の改善に取り組んでほしい。一方で、満足度という点ではリピーターや参加できなかった人へのフォローを行う必要があると思う。満足度を上げることが、講座開催者のスキルアップにも繋がると思う。また、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定したため、地球温暖化対策に関する講座を増やしていくとよい。

エコスクールの様子を紹介方法について、現在ホームページに写真を掲載して行っているが、動画等別の方法も検討してはどうか。

指標2（生活情報アプリの累計ダウンロード数）について、アプリは意識しないと使用しないため、LINEやツイッターで積極的な情報発信をすることは良いと考える。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

- ・エコスクールをWEB申し込みとした影響を分析し、落選者へのフォローアップを含め、多くの市民に参加してもらえる講座を開催していく。
- ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定しているため、地球温暖化対策に係るエコスクールを充実させる。
- ・エコスクールの様子をの周知を、写真だけではなくPR動画を作成するなど、多くの市民に興味を持ってもらえる方法を検討する。

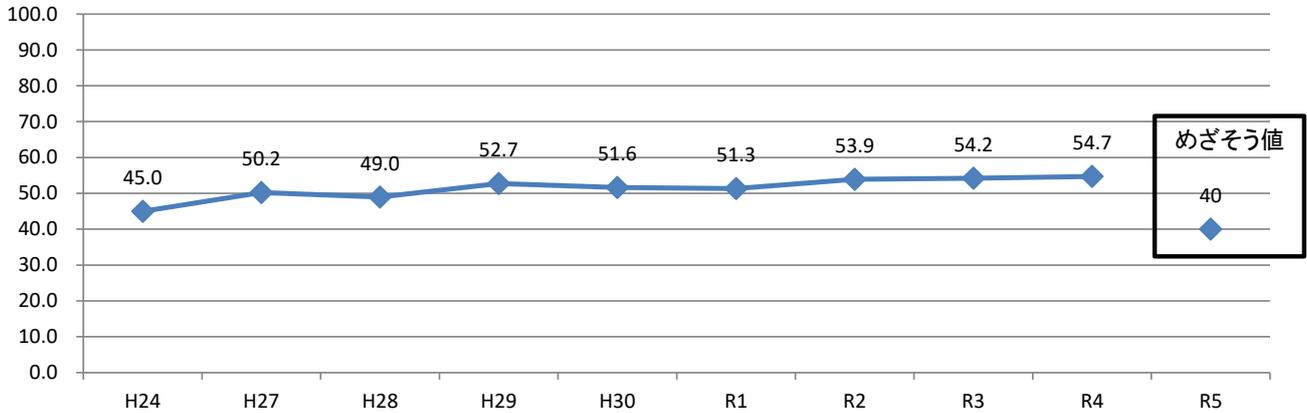
環境の柱 2 環境対策

環境分野 2

大気・ばいじん

きれいな空気を守る

成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると
感じている人の割合(%)



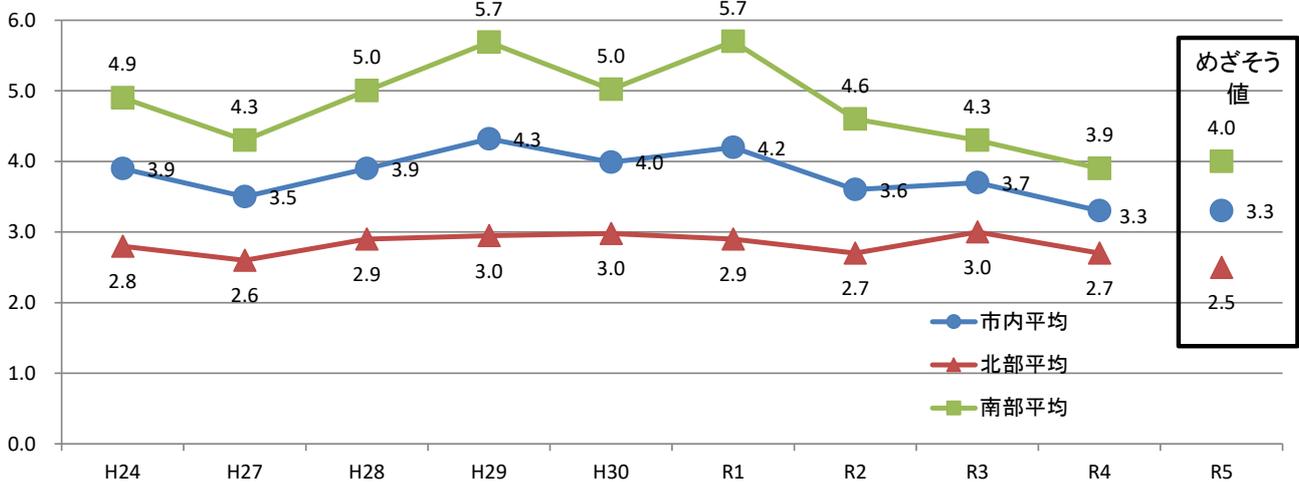
成果指標の分析

基準値と比べ9.7ポイント悪化しており、順調でない。「降下ばいじんの量」はめざそう値を達成した一方で、本指標が悪化し続けていることから、大気汚染や降下ばいじんに対して市民の実感に結びついていないと考える。市民アンケートでは、前年度同様に、30歳から64歳の世代や市南西部地区の割合が高くなっている。

目指す方向性

40%

成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km²・月)



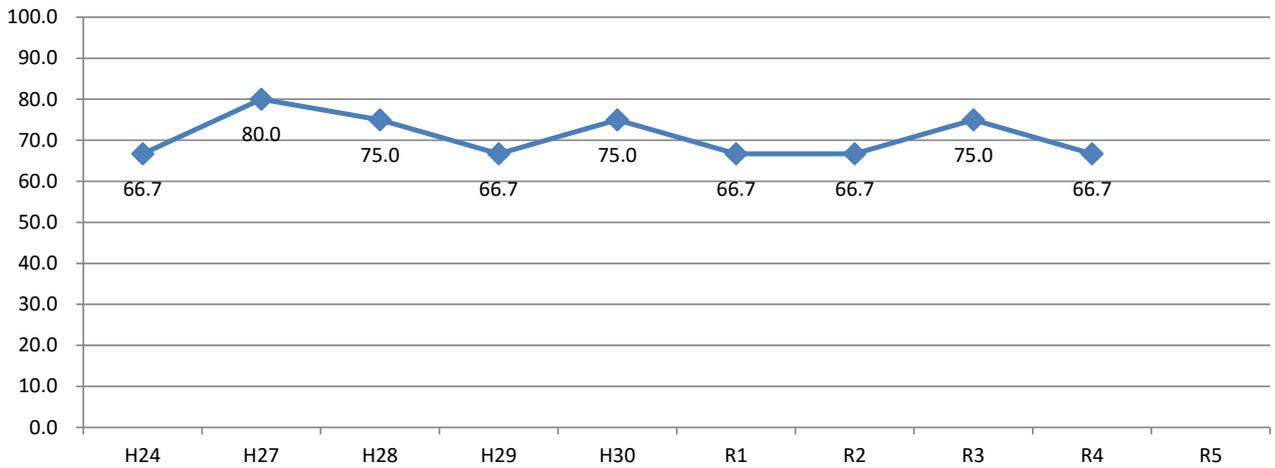
成果指標の分析

市内、北部、南部ともに基準値より改善しており、市内及び南部はめざそう値を達成した。臨海部企業の対策に一定の効果が表れていると考えるが、鉄鋼3社の生産量の変動や気象条件の影響も考えられる。また、例年と比べると差は少なくなっているものの南部は北部に比べて数値が高い状況が継続している。

目指す方向性

3.3t/km²・月(市内)
2.5t/km²・月(北部)
4.0t/km²・月(南部)

成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

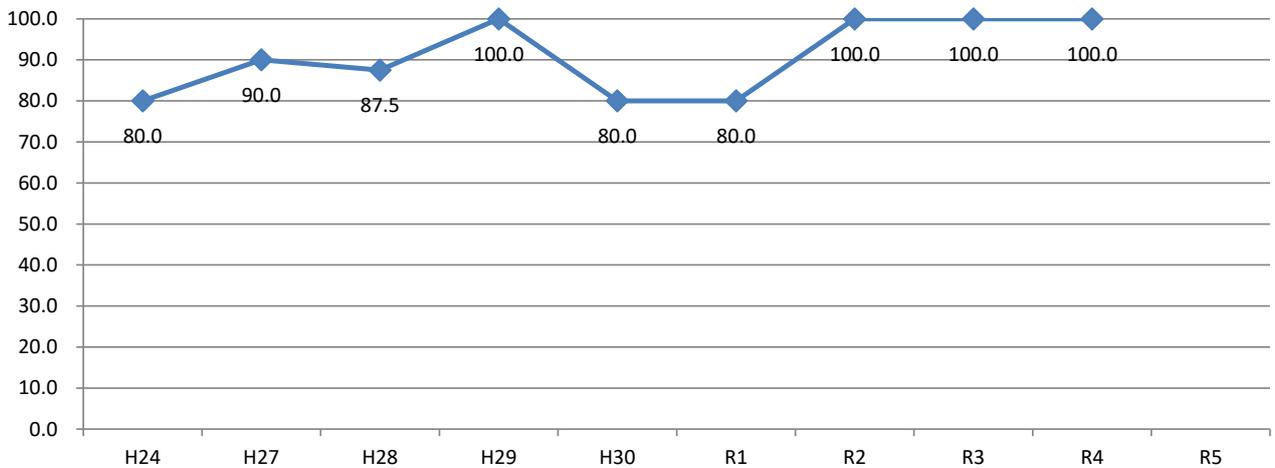
前年値より8.3ポイント減少しているが基準値と同じ値であり、横ばい傾向と考える。例年と同様に、昼間時間帯（6-22時）に比べて基準値が厳しい夜間時間帯（22-6時）の適合率が低い。なお、年度内において市民からの環境騒音に係る目立った苦情はない。

目指す方向性



増やす

成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

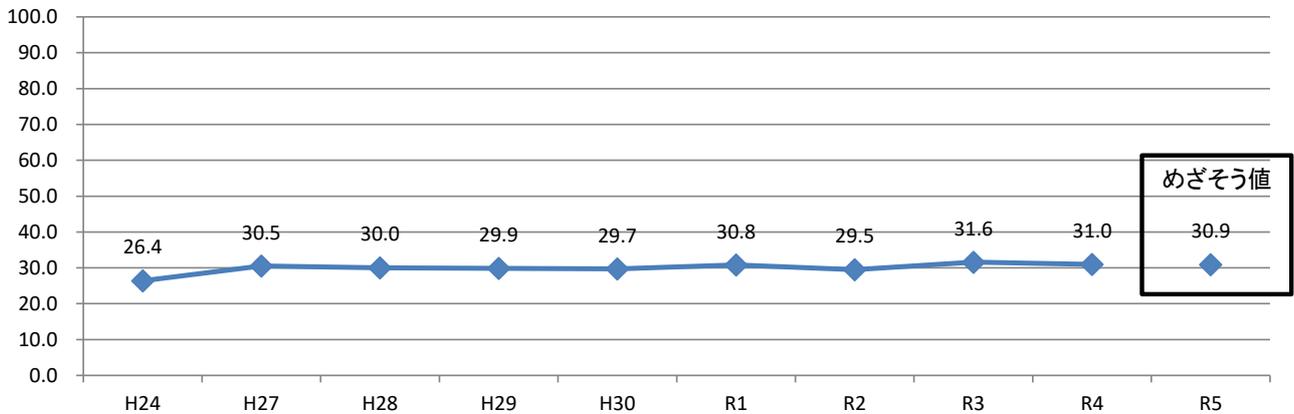
基準値から20ポイント向上しており、前年度に引き続き全地点で適合している。毎年度80%から100%の間で増減を繰り返しているが、順調に推移していると考え。なお、年度内において市民からの道路騒音に係る目立った苦情はない。

目指す方向性



増やす

成果指標7 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合(%)



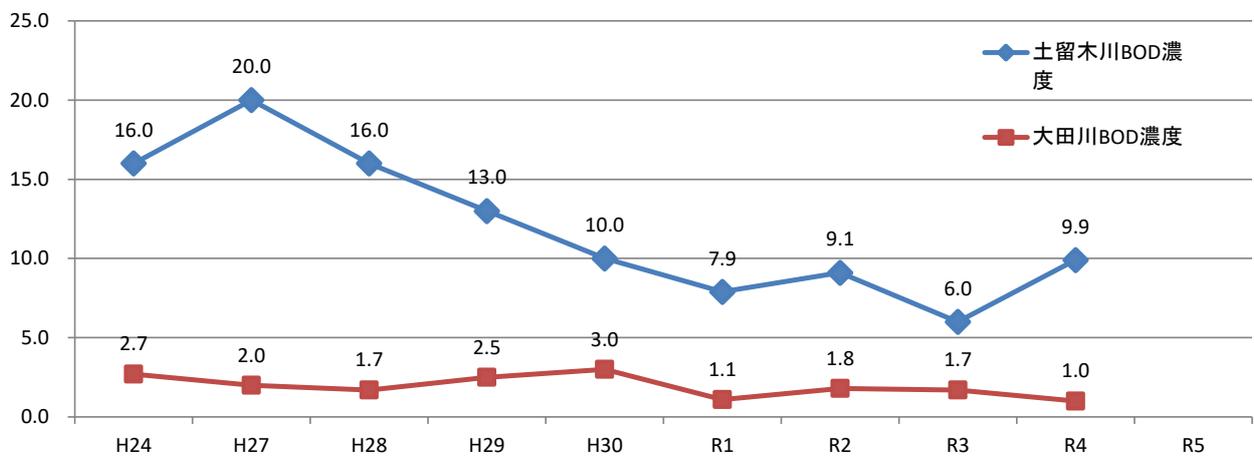
成果指標の分析

基準値と比べ4.6ポイント増加し、めざそう値を超えているが、近年は横ばい傾向が続いている。年齢別では、65歳以上の割合が高く、昔と比較すると川の水が大幅にきれいになっていると考える。学区別では渡内、船島、加木屋南の割合が高い一方で、緑陽、明倫、大田の割合が低い。

目指す方向性

30.9%

成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/l)



成果指標の分析

土留木川は、基準値と比べ6.1ポイント改善しているが、前年度と比較して3.9ポイント悪化した。BOD濃度は採取状況や気象条件などの影響を受けるため、今後の推移を注視する必要があるが、長期的には下水道接続率の向上により改善傾向にあると考える。
大田川は、基準値と比べ1.7ポイント改善しており、下水道整備が充分に進んでいることから、低い数値で推移していると考えられる。

目指す方向性



減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・市から事業所に対し、事業所から市民への降下ばいじん対策のより一層の広報について働きかける。
- ・これまでの降下ばいじん対策を継続しつつ、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進めていく。
- ・市は、広報やホームページを活用し、環境データの積極的な市民周知を行うとともに、市民にわかりやすい情報発信の工夫をしていく。
- ・河川の水質改善状況が市民に伝わるようなイベントや環境学習を検討する。
- ・引き続き悪臭、騒音の監視に努め、苦情があった場合には早期に対応することで、より良い生活環境を守っていく。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）大気分析事業

大気汚染自動測定器による大気環境測定及び降下ばいじん等の個別の項目における測定を実施した。環境基準のある項目については、光化学オキシダントを除き適合した。なお、光化学オキシダントは愛知県の全測定局において基準値未達成となっている。

●（継続）騒音測定事業

市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした

- ・環境騒音測定 6地点 基準値適合率 66.7%
- ・自動車騒音測定 5地点 要請限度適合率 100%
- ・夜間工場騒音測定 7事業所 全事業所において協定値適合

●（継続）水質分析事業

住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した

- ・分析内容 河川(8地点)、ため池(16地点)、工場排水(15地点)の水質分析

【改善点等】

- （変更）広報とうかいにおいて、東海市の大気測定結果に関するページについて拡充を図り、降下ばいじん削減に向けた取り組み内容を新たに記事とし、令和4年度は日本製鉄が整備した1・2焼結炉環境集塵機の概要を紹介した。また、ホームページにおいても、降下ばいじん対策のページを作成するとともに、鉄鋼3社の対策に係る写真を追加するなど、分かりやすさの向上を図った。また、鉄鋼3社、県及び市で構成される降下ばいじん検討会において、市から鉄鋼3社に対して降下ばいじん対策の積極的な情報公開を要請した。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

降下ばいじんについて、市内事業所は削減対策を行っており、数値は下がっているが、日常生活に何らかの支障があることから実感に繋がっていないため、引き続き降下ばいじん対策の広報を継続することが重要と考える。また、小学生に対し出前講座だけではなく校外学習で工場見学して子供たちが自分の目で確かめる機会があるとよい。

指標6（自動車交通騒音基準値の適合率）について現在は問題ないが、今後の駅西の開発により物流関係でトラックの走行量が増えるなどした場合に、問題が出る可能性はあると考える。

河川について、引っ越してきた人やきれいな川を見てきた人からすると、川底にごみが落ちていたりすると汚いと感じると考えられるため、引き続き水質の監視を行うとともに、河川に関するエコスクールの実施により、水のきれいさを知ってもらうようにするとよい。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

- ・市と事業所が協力し、事業所の降下ばいじん対策について市民が実感できる方法等を検討する。また、広報とうかいや市ホームページを活用した、降下ばいじんに係る情報発信を積極的に行う。
- ・引き続き河川の水質改善状況が市民に伝わるようなイベントや環境学習の実施を検討する。

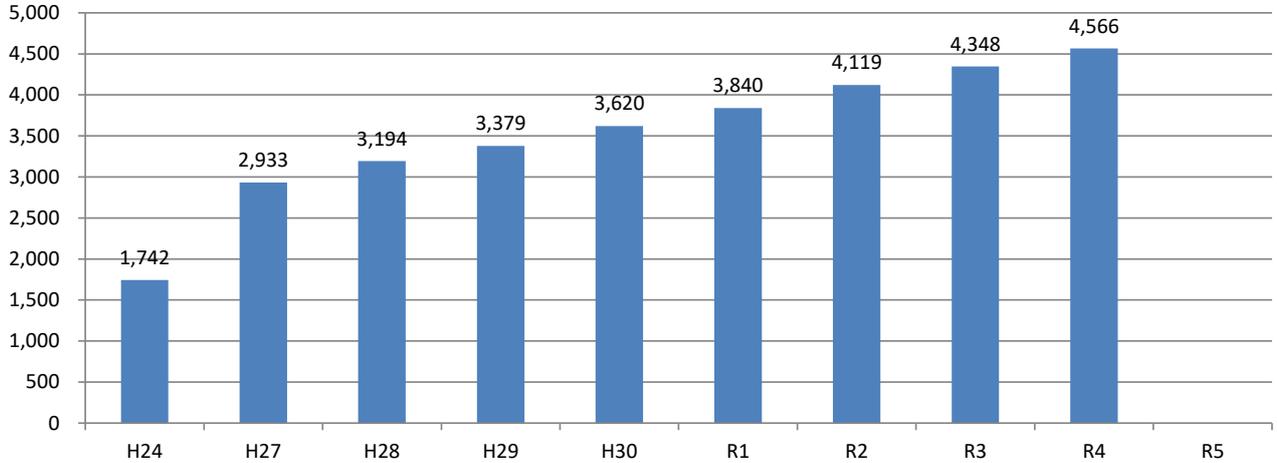
環境の柱3 環境保全・再生・創造

環境分野 5

地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

成果指標10 太陽光発電システムの累計設置件数(件)



成果指標の分析

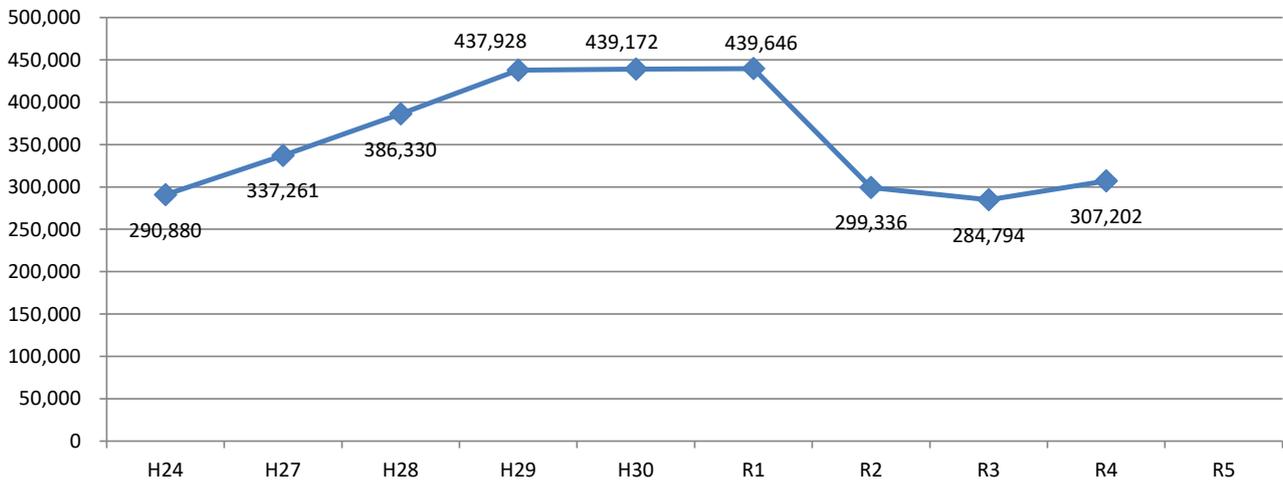
累計設置件数は、基準値より2,824件、前年度から218件増加したものの、前年度からの増加件数は過去5年で最も少なかったため横ばいと考えられる。
電気料金の値上がりが続き、再生可能エネルギーの導入に対する関心は高まっていると考えられるが、FIT制度(固定価格買取制度)による買取価格が低下していること、及び大規模な宅地開発がなかったため増加件数が減少したと考えられる。

目指す方向性



増やす

成果指標11 らんらんバスの年間利用者(人/年)



成果指標の分析

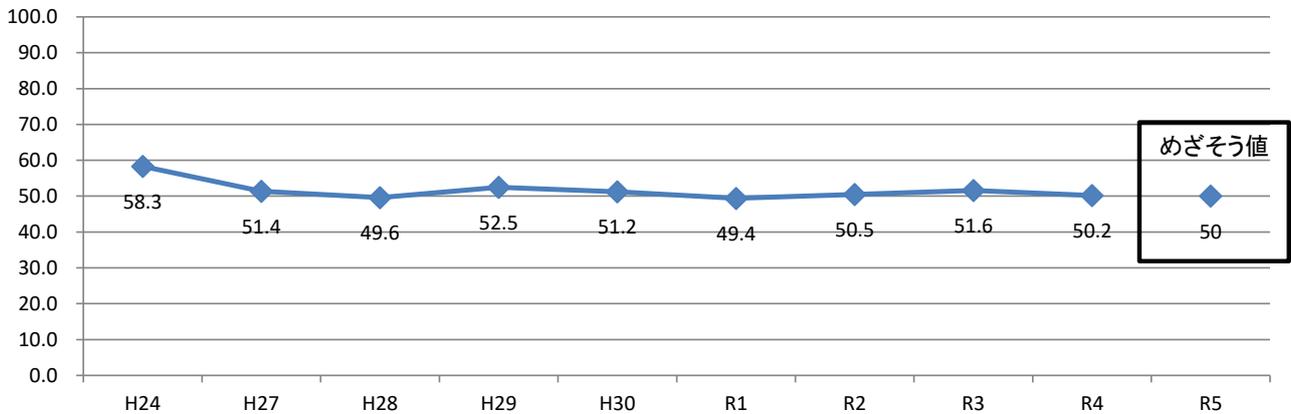
基準値より16,322人増加しているが、元年度と比べると132,444人減少している。新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、鉄道等も含めた公共交通機関全体で利用者が回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準には経済活動が循環していないことやテレワークの進展など社会環境の変化が原因と考えられる。

目指す方向性



増やす

成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



成果指標の分析

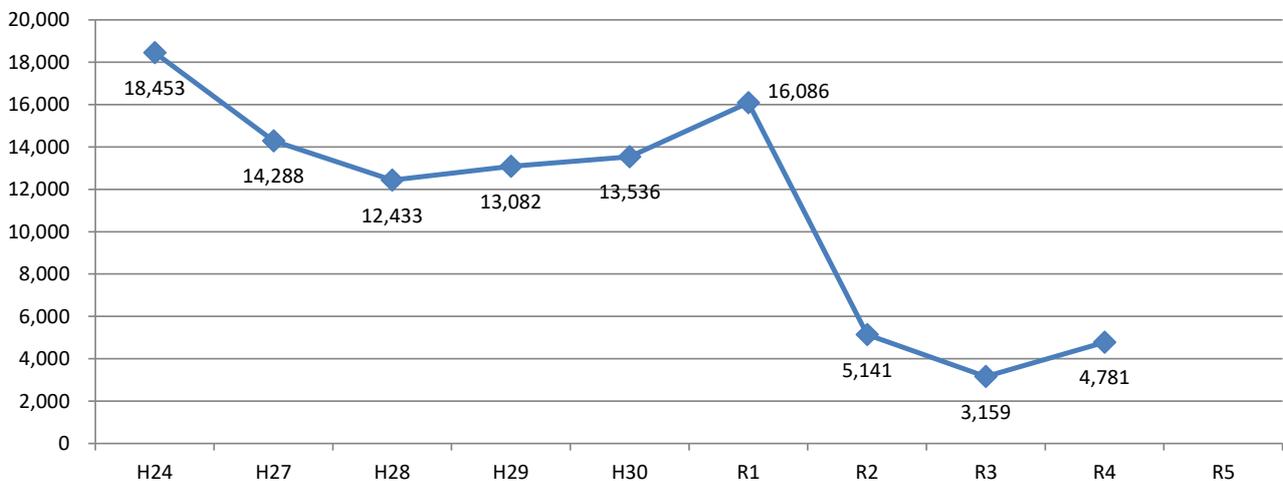
基準値から8.1ポイント改善しているが、平成27年度からは横ばい傾向が続いている。市の地域美化推進事業における道路等のゴミの回収量は減少傾向にあり、市内のポイ捨てゴミは減少していると考えられるが、年齢別で10歳代から20歳代の割合が高くなっていることなど、ポイ捨てなど環境への環境への関心が高くなっていることが、割合の減少に繋がっていない原因と考える。

目指す方向性



減らす

成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



成果指標の分析

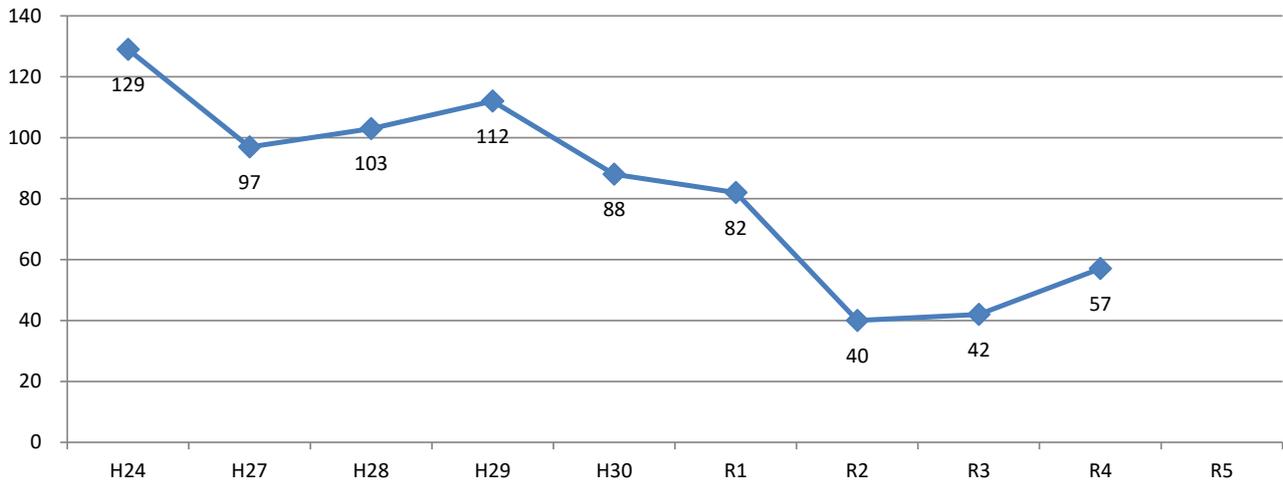
基準値と比べ13,672人減少したが、前年度からは1,622人増加した。新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動が徐々に再開する傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っておらず、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動も同様の傾向となっている。
 (参考) コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動参加人数 元年度4,666人→4年度1,558人

目指す方向性



増やす

成果指標 1 4 地域の清掃活動に参加した団体数（団体）



成果指標の分析

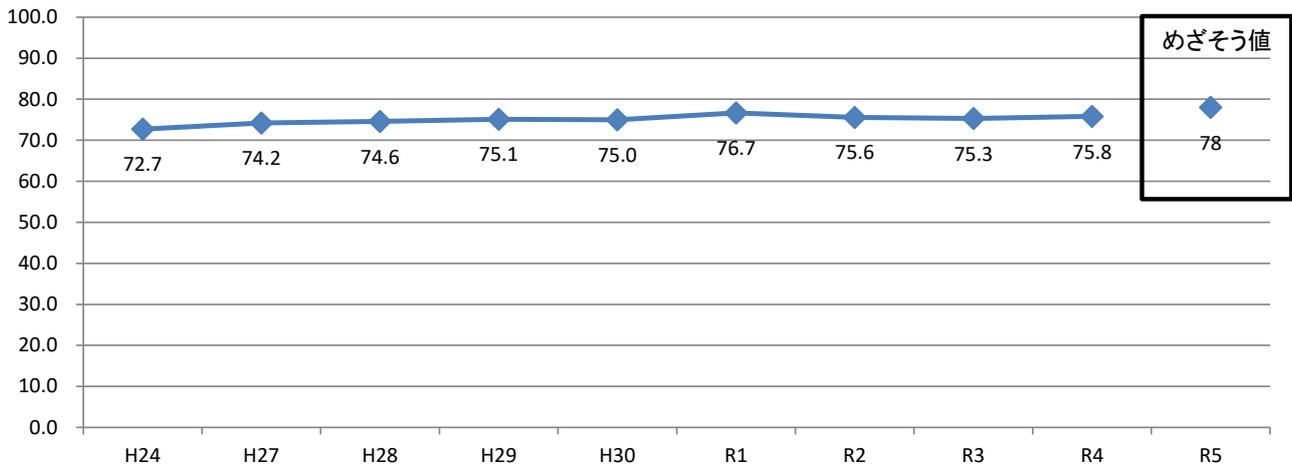
基準値と比べ72団体減少したが、前年度からは15団体増加した。
 新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動が徐々に再開する傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っておらず、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動も同様の傾向となっている。
 （参考）コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動参加団体数 元年度14団体→4年度9団体

目指す方向性



増やす

成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合(%)



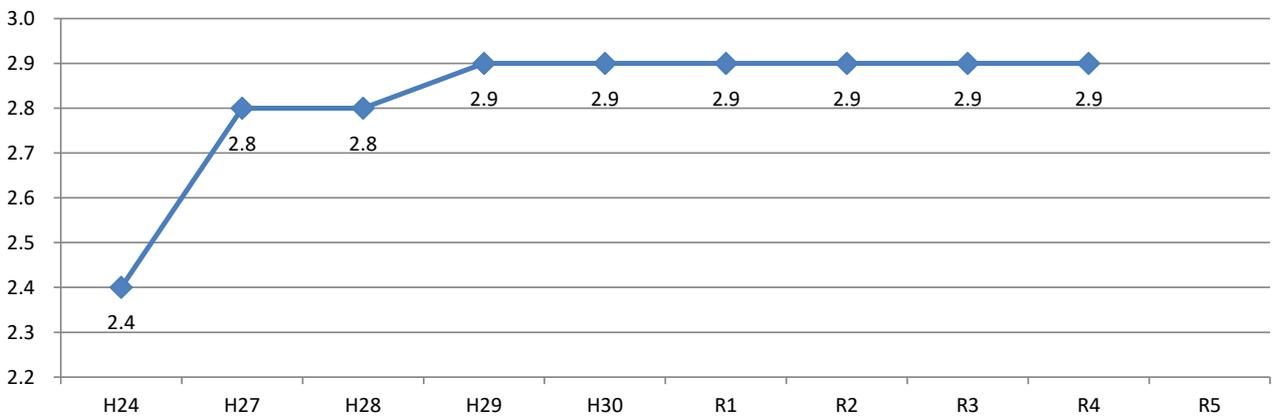
成果指標の分析

基準値と比べ3.1ポイント増加しているが、近年は横ばい傾向である。公園緑地整備及び花と緑のまちづくりの推進と、適切な維持管理を実施しているものの、コロナ禍によって花のまちづくり運動等の活動が縮小となったことが要因であると考えられる。

目指す方向性

78%

成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



成果指標の分析

基準値と比べ0.5ポイント増加しているが、前年度と同数値であり、近年は横ばい傾向である。都市公園は計画的に整備を進めているが、近年は都市公園の供用開始に至っていないため、横ばいとなっている。

目指す方向性

増やす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、市として地球温暖化対策の計画策定を進めるとともに、計画内容に沿った対策について市民・事業者・市が一体となって推進していく。
- ・コロナ禍が続いた場合でも感染症と共存していくことができるような清掃活動の在り方を検討し、地域美化活動を推進していく。
- ・花や緑が充実していると思う人が増えるように、ハード面の整備だけでなく、自然環境を守り育てていく気持ちを育む取組みをより一層充実させる。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）住宅用地球温暖化対策設備導入促進補助事業
再生可能エネルギーの利用の促進のため、住宅用太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池システム、電気自動車等充給電設備及び高性能外皮の設置に対して補助をした。
 - ・補助実績 HEMS15件、家庭用燃料電池システム27件、蓄電池61件、電気自動車等充給電設備1件、太陽光発電施設との一体的導入33件
- （継続）地域美化推進事業
ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。
 - ・不法投棄監視パトロールによるごみの回収量 6,900kg
- （継続）自然環境再生事業
『ふるさとの自然』を保全・再生し、ホタル、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶイベントを開催した。
 - ・場所 加木屋緑地
 - ・内容 ビオトープづくり及び植栽会(4回)
 - ・参加者数 111人(4回)

【その他】

地球温暖化対策として、令和5年(2023年)10月（予定）の策定を目指して、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）※2の検討を実施した。
※2 市民及び事業者における温室効果ガス排出量削減に係る計画
また、地球温暖化対策啓発グッズ（うちわ、コットンバッグ等）、啓発チラシを作成し、市内イベント等で配布した。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標10について、太陽光発電の設置件数が増えていることは一つの成果だと思うが、設置から年数が経過し耐用年数が近づいていることで、廃棄物が増えることも考えられるため、不法投棄に繋がらないような対策を検討する必要があると思う。

指標11について、利用者の年齢層の分析しているのであれば、通院や通所利用等のニーズに応えられる運行ルートや便数を検討してはどうか。

指標12について、意識醸成が着実に進んでいるが、成果を評価するためには回収量など客観的な数値を指標とするほうが良いと思う。

地域の清掃活動について、意識醸成が進んでいること及びコロナの収束により、数値が回復していくことを期待している。

指標15及び16について、どちらも横ばい傾向が続いており、現状のままでは数値の増加は難しいので、農地を緑に加えることを検討してはどうか。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組方針

- ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の推進については、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことが重要であることから、まずは市が積極的に啓発を進める。
- ・環境美化について意識醸成が進んでいることを踏まえ、今後は地域の清掃活動に参加する市民及び団体数が増加するような方策を検討し、地域美化活動を推進していく。

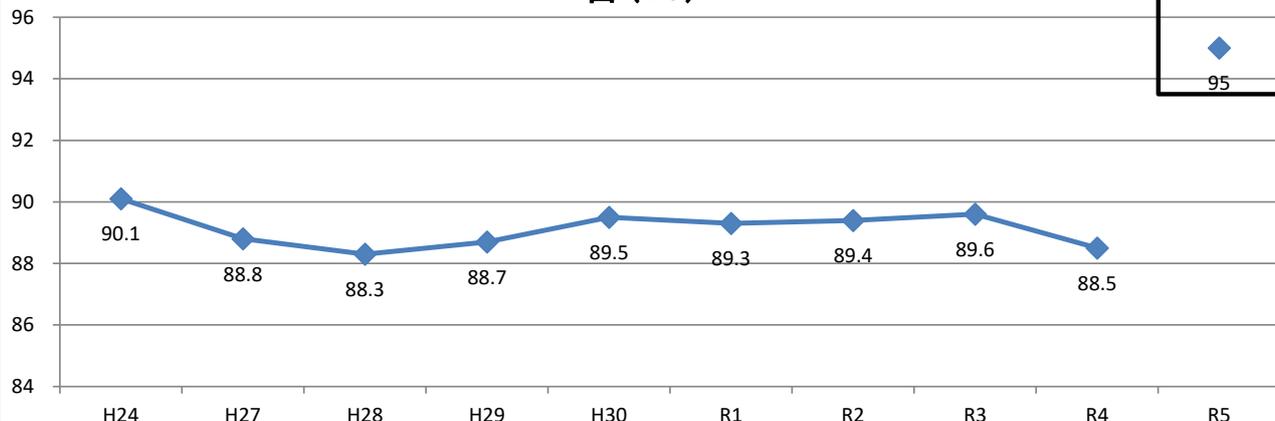
環境分野 8

3 R活動

ごみ減量と資源化を推進する

成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)

めざそう値
◆
95



成果指標の分析

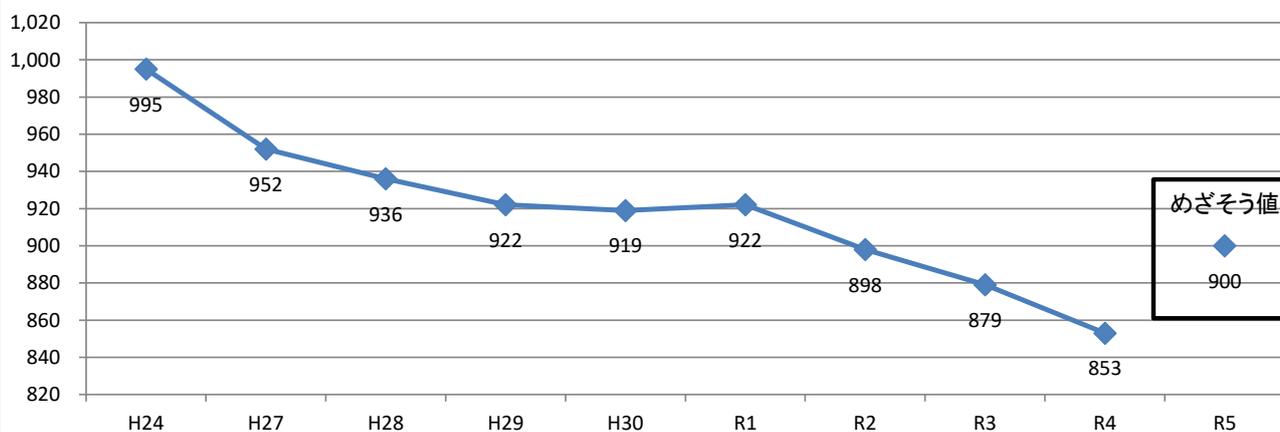
目指す方向性

基準値と比べ1.6ポイント悪化しているが、高い割合を継続的に維持しており、近隣市町と比較すると良好な数値である。
年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態は基準年度以降続いている。

95%

成果指標18 市民一人当たりのごみの総量 (g/人・日)

めざそう値
◆
900



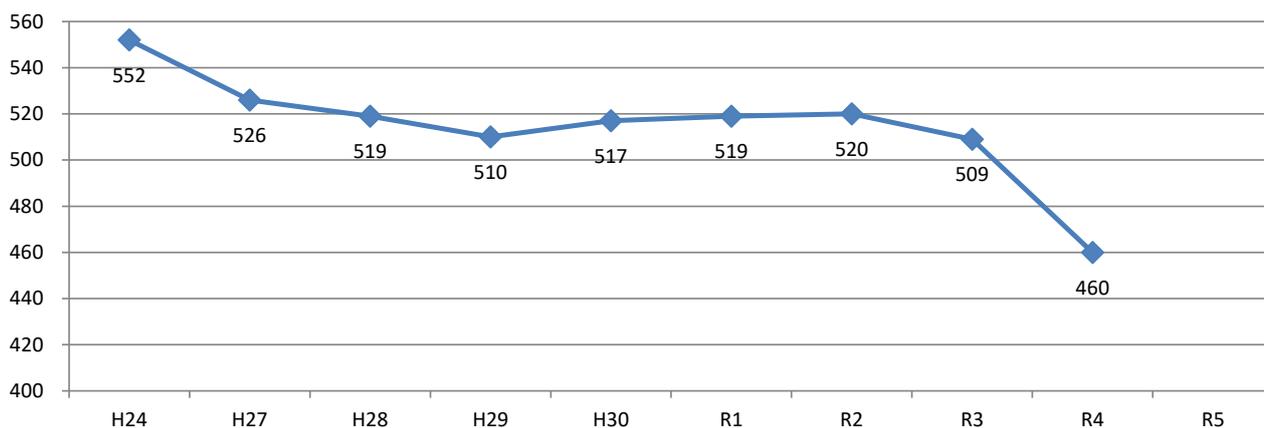
成果指標の分析

目指す方向性

一人1日当たりのごみの総量は減少傾向であり、基準値と比べて142g/人・日減少し、目指す方向性で示された900g/人・日を下回っている。
物価の高騰により物品の更新機会が減っていることや、リユース市場の拡大により中古品を売買する人が増えていることが要因と考えられる。

900g/人・日

成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量(g/人・日)



成果指標の分析

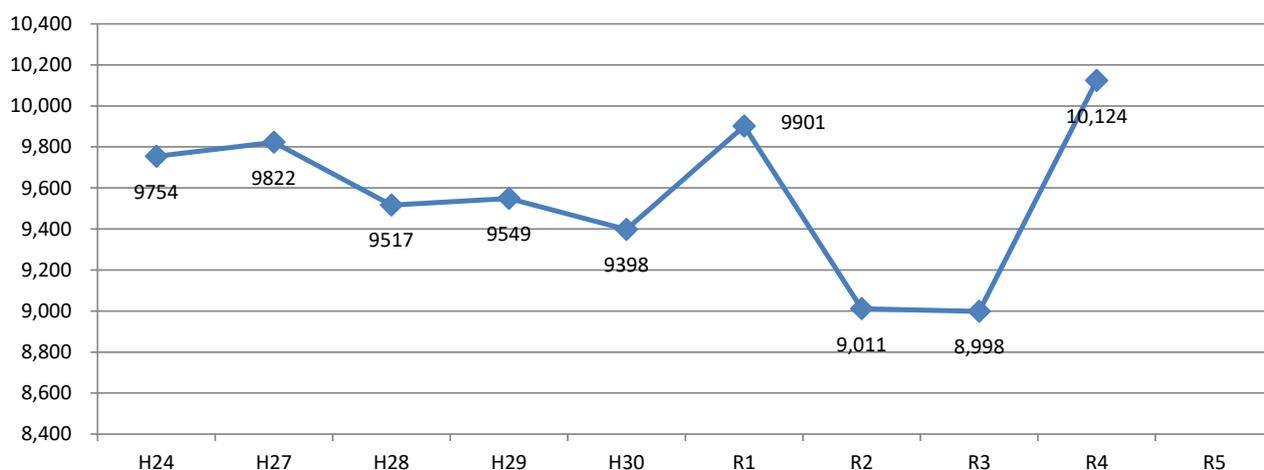
基準値と比べ92g/人・日の改善、また、前年度と比べ49g/人・日の改善となっている。物価の高騰により物品の更新機会が減っていることや、リユース市場の拡大により中古品を売買する人が増えている。また、令和3年度までは公共施設から排出されたごみを家庭系ごみとしていたが、西知多クリーンセンターへの移行に先立ち、令和4年度より公共回収を開始し、事業系ごみとしたことが要因と考えられる。なお、従前の分析方法の場合は498g/人・日で、基準値と比べ54g/人・日の改善、また、前年度と比べ11g/人・日の改善となる。

目指す方向性



減らす

成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



成果指標の分析

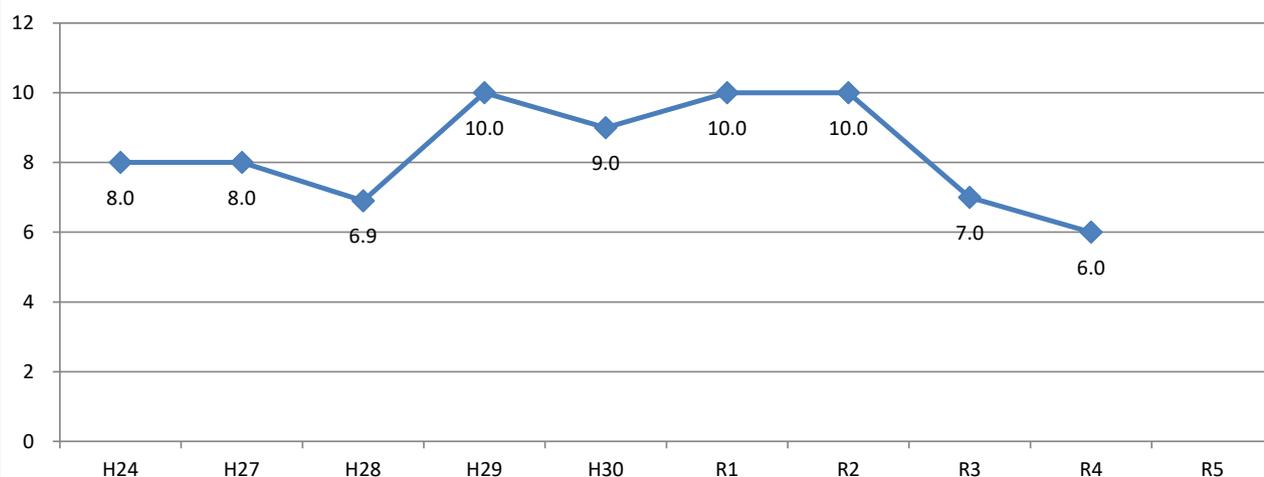
事業系ごみの総排出量は基準値に比べ370t増加、また、前年度に比べ1,126t増加した。令和3年度までは公共施設から排出されたごみを家庭系ごみとしていたが、令和4年度より公共回収を開始し、事業系ごみとしたことが要因と考えられる。なお、従前の分析方法の場合は8,531tで、基準値に比べ1,223t減少、また、前年度に比べ467t減少する。

目指す方向性



減らす

成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



成果指標の分析

基準値と比べ2ポイント改善した。
 令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法に伴い、プラスチック製容器包装の資源化の推進を促したこと、また、市民の分別意識が向上し、排出する段階で不適合物の除去がされていたことが要因と考えられる。

目指す方向性



減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・取組等が幅広い世代に伝わるよう、生活情報アプリを始めとした市の情報発信媒体を活用した啓発活動を継続する。また、市民一人当たりのごみの総量の目標を達成したことのPR及び更なるごみの減量及び資源化の取組が推進されるような効果的な情報発信方法について検討する。
- ・「プラスチック資源循環促進法」が施行されたため、プラスチックごみの削減及び資源化を促すとともに、排出段階でペットボトル等の不適合物を除去するよう啓発する。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）3R活動講座等運営事業
東海市エコスクール関連講座「サステイナブル☆キッズフェスタ2023」及び「3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～【実践編】」を開催した。
 - (1) サステイナブル☆キッズフェスタ2023
 - ・開催日 R4(2022). 8. 20
 - ・内容 不用品を活用した工作・雑貨製作体験及び3R活動講座
 - ・参加者数 31名
 - (2) 3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～【実践編】
 - ・開催日 R4(2022). 7. 16
 - ・内容 3Rを活用し、実践に役立つ収納術等を学ぶ講座
 - ・参加者数 21名
- （継続）資源集団回収事業
ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子ども会等が行った資源の集団回収を支援した。
 - ・団体数 106団体 ※R4(2022). 4. 1時点
 - ・回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
 - ・回収量 1, 946 t

【改善点等】

令和3年度に好評であった「3Rで住まいを整える～お片付けセミナー～」の継続として実践編の内容を紹介し、3Rを意識した片付けができる講座を開始した。令和5年度は、家の中にモノを入れない、リデュースをメインとした仕組みづくりを学べるセミナーを開催する。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標17（ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合）は、近隣市町と比較して高い数値を維持しており、このような状況の中で、今後どのような施策がごみの減量に効果的か考える必要がある。また、児童向けに環境学習を実施し、昨今の廃棄物問題を教える必要がある。

指標18（市民一人当たりのごみの総量）、19（市民一人当たりの家庭系ごみの排出量）及び20（事業系ごみの総排出量）は、コロナ禍の影響もありごみの排出量が減少しているが、コロナウイルスが収束したことで、今後のごみの排出量の増減を注視する必要がある。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

- ・若年層を対象にごみ減量、リサイクルの意識付けを促すため、市公式SNSを活用した啓発活動を実施する。また、児童を対象とした環境学習を充実させる。
- ・コロナウイルスが第5類に引き下げられましたので、一般廃棄物収集運搬許可業者の搬入ごみの展開検査の再開や、各家庭から排出される廃プラスチックの資源化を促し、ごみの排出量の削減に努める。

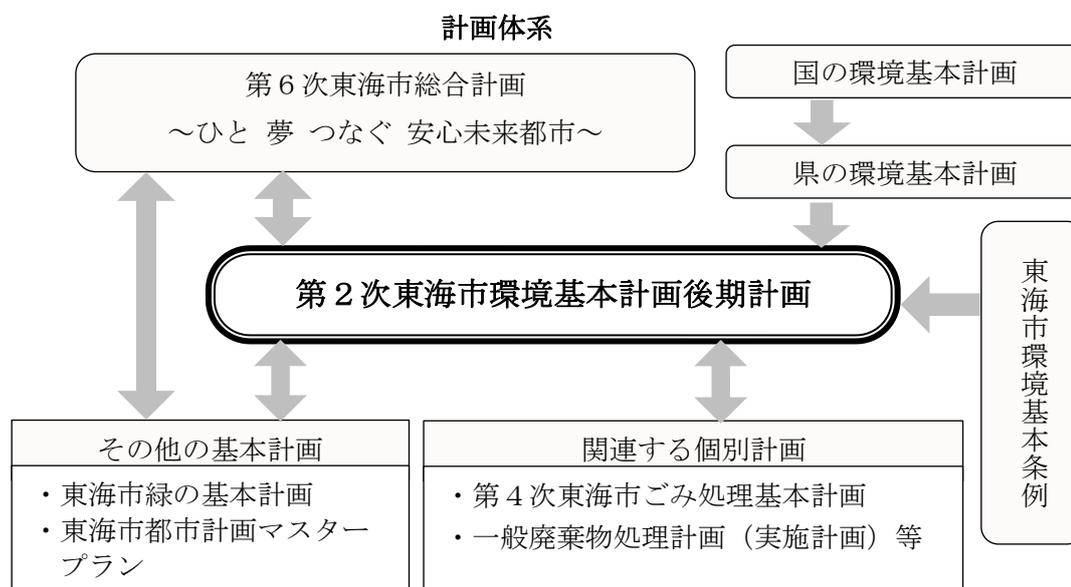
参考資料

1. 環境基本計画の概要

(1).計画の推移及び体系

本市では、平成 17 年(2005 年)に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成 19 年度(2007 年度)に「東海市環境基本計画」を策定しました。本市は、この計画にビジョンとして掲げた「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政の協働を推進し、さまざまな環境施策を推進してきました。

平成 28 年度(2016 年度)には、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、「第 2 次東海市環境基本計画」を策定し、さらに、令和元年度(2019 年度)には、平成 30 年度(2018 年度)に上位計画である第 6 次東海市総合計画後期計画が策定されたことを受けて、「第 2 次東海市環境基本計画後期計画」を策定しました。



(2).計画の期間

上位計画である第 6 次東海市総合計画の施策や指標との整合性を図るため、次のとおりの期間としています。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

本市では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供など、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきましたが、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題等への関心が高まってきています。

第2次東海市環境基本計画では、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につながる美しいふるさと東海」の将来都市像を継承し、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていきます。

<ビジョン>

未来につながる 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

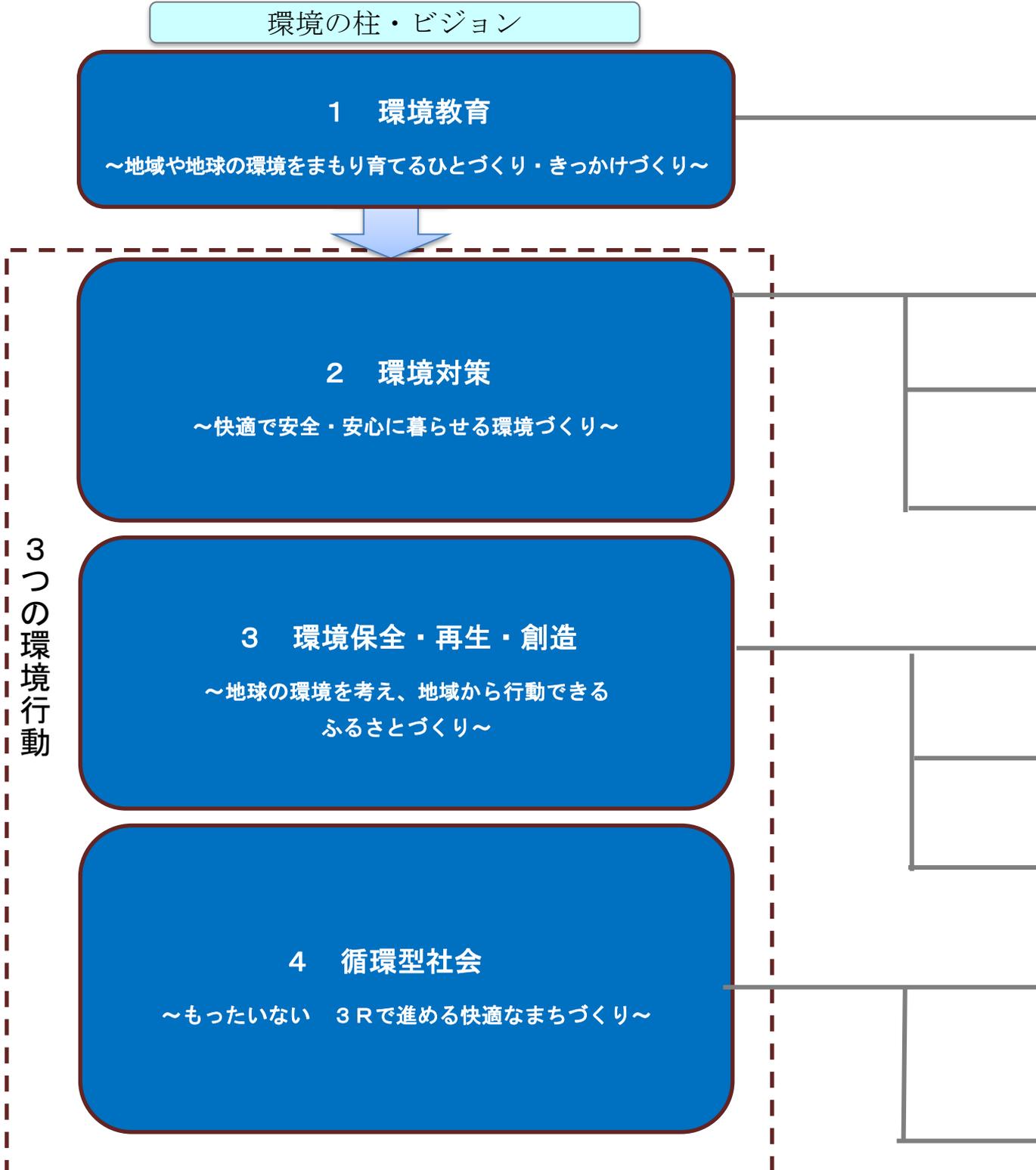
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

成果指標		算出方法
環境の柱1 環境教育		
1	エコスクールの参加者数	1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	1年間の生活情報アプリのダウンロード数
環境の柱2 環境対策		
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
4-1	降下ばいじんの量 （市内平均）	市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所
4-2	降下ばいじんの量 （北部平均）	市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
4-3	降下ばいじんの量 （南部平均）	市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
5	環境騒音基準値の適合率	環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）で計12測定値が環境基準に適合している割合
6	自動車交通騒音基準値の適合率	自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）で計10測定値が要請限度を超えない割合
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
8	土留木川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点）
9	大田川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋）

成果指標		算出方法
環境の柱3 環境保全・再生・創造		
10	太陽光発電システムの累計設置件数	中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計
11	らんらんバスの年間利用者数	1年間のらんらんバスの利用者数
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
13	地域の清掃活動に参加した人数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数
14	地域の清掃活動に参加した延べ団体数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数
15	花や緑が充実していると思う人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
環境の柱4 循環型社会		
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	市内の都市公園面積/東海市の面積×100
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
18	市民一人当たりのごみの総量	【1年間のごみ(家庭系・事業系(可燃物+不燃物))の清掃センターへの総搬入量+分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量+市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	1年間の家庭ごみ(可燃物+不燃物)の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口
20	事業系ごみの総排出量	1年間の事業系可燃ごみの総重量+事業系不燃ごみの総重量
21	プラスチック製容器包装の不適合混合率	1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量

4. 成果指標一覧表

	成 果 指 標	基準値 H24	R4	めざそう値(R5) めざす方向性
1	エコスクールの参加者数	971 人	946 人	↗
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	-	19,113 件	↗
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	45%	54.7%	40%
4	降下ばいじんの量(市内平均)	3.9t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.8t/km ² ・月	2.7 t/km ² ・月	2.5 t/km ² ・月
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.9t/km ² ・月	3.9 t/km ² ・月	4.0 t/km ² ・月
5	環境騒音基準値の適合率	66.7%	66.7%	↗
6	自動車交通騒音基準値の適合率	80%	100%	↗
7	市内の川の水がきれいであると 感じている人の割合	26.4%	31.0%	30.9%
8	土留木川の BOD 濃度	16.0mg/ℓ	9.9 mg/ℓ	↘
9	大田川の BOD 濃度	2.6 mg/ℓ	1.0 mg/ℓ	↘
10	太陽光発電システムの累計設置件数	1,742 件	4,566 件	↗
11	らんらんバスの年間利用者数	290,880 人/年	307,202 人/年	↗
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	58.3%	50.2%	50%
13	地域の清掃活動に参加した人数	18,453 人	4,781 人	↗
14	地域の清掃活動に参加した団体数	129 団体	57 団体	↗

		基準値 H24	R4	めざそう値(R5) めざす方向性
15	花や緑が充実していると思う人の割合	72.7%	75.8%	78%
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	2.4%	2.9%	↗
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	90.1%	88.5%	95%
18	市民一人当たりのごみの総量	995g/人・日	853g/人・日	900 g/人・日
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	552 g/人・日	460 g/人・日 ※	↘
20	事業系ごみの総排出量	9,753 t	10,124 t ※	↘
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	8.0%	6.0%	↘

※公共施設から排出されたごみについて、令和4年度（2022年度）より家庭系ごみから事業系ごみに分類を変更したことから、従前の分類で算定した場合、19番は498 g/人・日、20番は8,531tとなるもの

5. 計画推進の検討過程

- 令和5年（2023年）5月30日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書の成果指標の評価について」
- 令和5年（2023年）8月23日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「令和4年度事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価」
「令和5年度以降の取り組み方針について」
- 令和5年（2023年）12月22日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行管理について」
「第3次環境基本計画について」

6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

本年次報告書の作成にあたり、検討を行った委員を掲載

令和6年（2024年） 月時点

※（ ）は旧委員

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会 環 境	山 本 隆 明	事業者を代表する者
副 委 員 長 社会環境部会長	社 会 環 境	寺 島 賀 子	NPO を代表する者
副 委 員 長 生活環境部会長	生 活 環 境	吉 原 雅 哉	事業者を代表する者
副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長	廃棄物・リサイクル	榊 原 弘 之 (判 治 圭 祐)	事業者を代表する者
委 員	社 会 環 境	近 藤 高 史	事業者を代表する者
〃	〃	牲 川 順 一	事業者を代表する者
〃	〃	龍 田 昭 一	市内に在住する者
〃	生 活 環 境	南 川 陸 夫	NPO を代表する者
〃	〃	武 富 時 満	NPO を代表する者
〃	〃	吉 鶴 弥 生	市内に在住する者
〃	〃	加 古 博 之	市内に在住する者
〃	廃棄物・リサイクル	早 川 権 慈	NPO を代表する者
〃	〃	毛 利 まり子	NPO を代表する者
〃	〃	田 中 治 幸	市内に在住する者
〃	〃	森 岡 良 枝	市内に在住する者

令和5年度（2023年度）版
環境基本計画年次報告書

●発行

令和6年（2024年） 月

●編集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター

東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

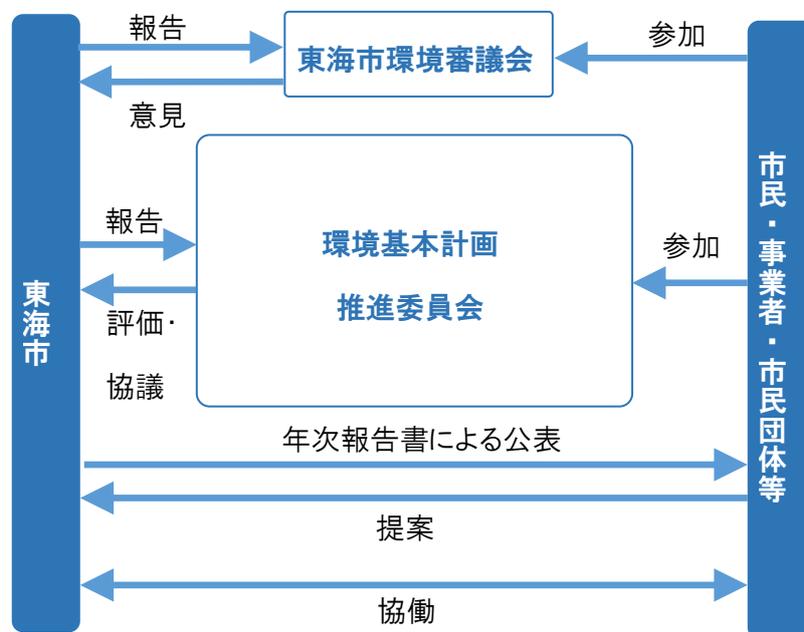
東海市 環境経済部 生活環境課
〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地
TEL 052-603-2211/0562-33-1111
FAX 052-603-6910
URL <http://www.city.tokai.aichi.jp>
E-mail kankyoushou@city.tokai.lg.jp

東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行管理について

1 趣旨

令和5年9月に策定した「東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を実行的・効果的に推進していくため、東海市環境基本計画に基づいて組織された「環境基本計画推進委員会」を本計画の推進組織として位置づけ、他団体・組織と連携しながら事業を実施するなど、着実に計画を推進していきます。

<推進体制図>

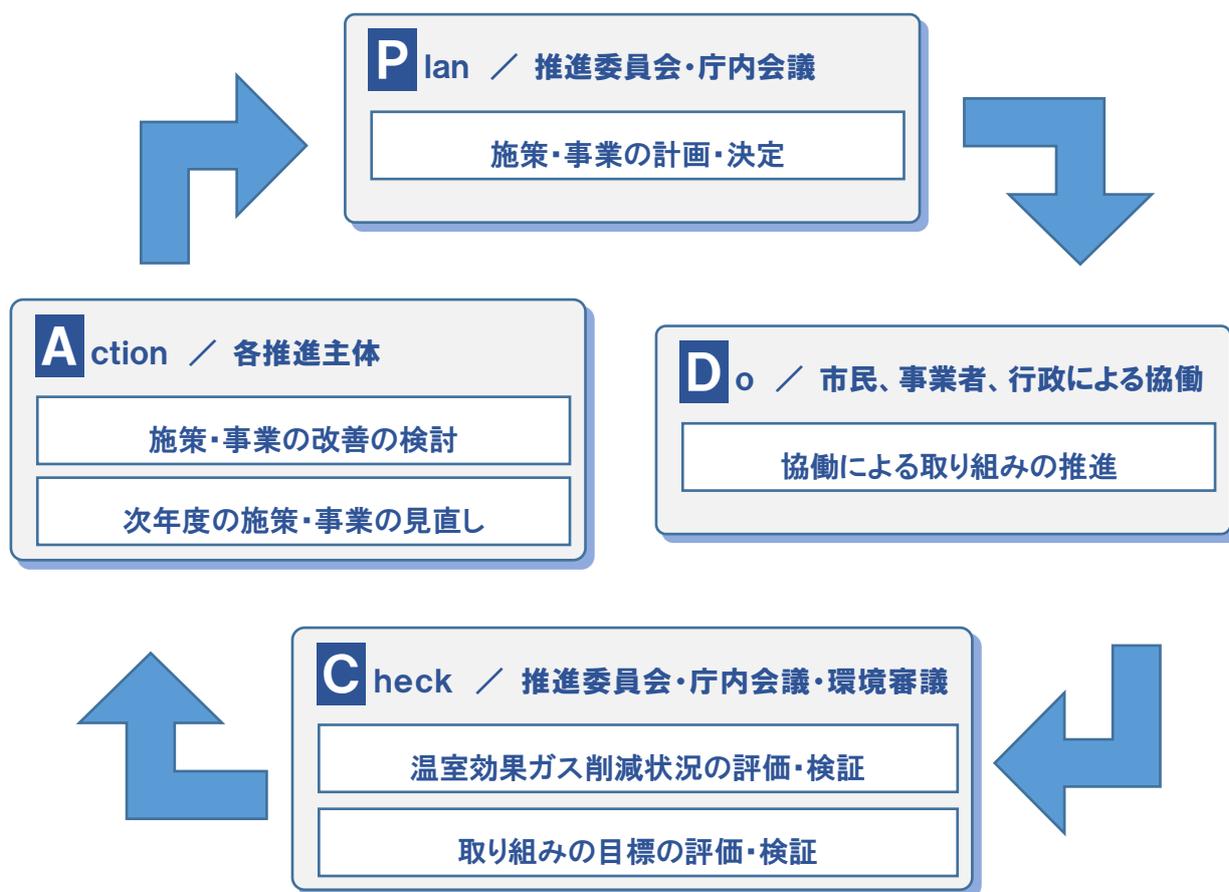


2 進行管理

毎年度の進行管理において、市内の温室効果ガス排出量を算定し把握するとともに、基本方針ごとに設定した取り組みの目標に基づいて、定量的に取り組みの進捗状況を点検・評価します。また、市内の特定事業所における、温室効果ガス排出量に関する情報収集を行い、削減状況のモニタリングを実施します。

進捗管理の状況については、毎年度の点検・評価結果などを取りまとめて年次報告書を作成し公表します。

< 進行管理における P D C A サイクル >



< 進行管理手順 >

	実施事項
Plan	<ul style="list-style-type: none"> 市内における温室効果ガス排出量の削減に向けた計画を策定します。 施策の評価や取り組み内容の見直しに基づいて、毎年の年次計画を立案します。
Do	<ul style="list-style-type: none"> 各主体が協働して、温室効果ガス排出量の削減に資する取り組みを実施します。
Check	<ul style="list-style-type: none"> 達成状況及び取り組みの進捗状況を点検・評価するとともに推進委員会において議論します。 点検・評価について年次報告書で公表します。
Action	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果に基づいて、目標達成した取り組み・未達の取り組みについてその原因を分析し、改善に向けた具体的な方法を検討します。

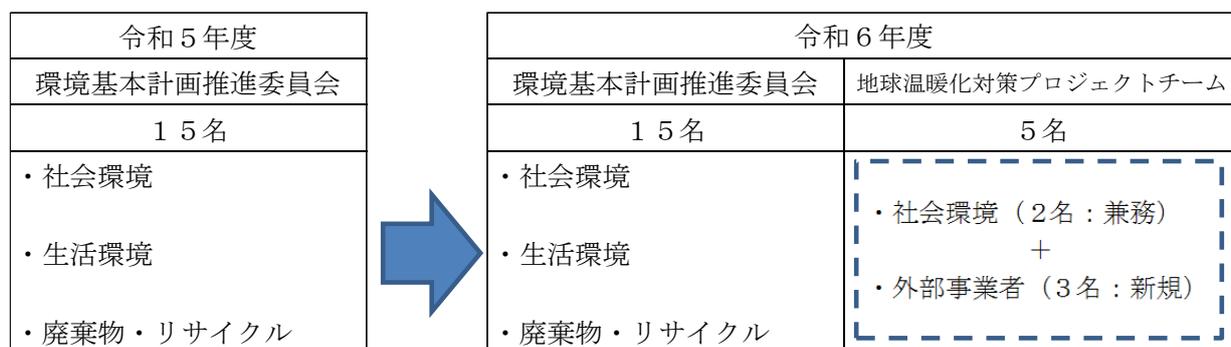
3 環境基本計画推進委員会の役割

計画の達成状況及び取り組みの進捗状況を点検・評価し、結果を年次報告書で公表します。また、評価結果に基づいて、目標を達成した取り組み・未達の取り組みについてその原因を分析し、改善に向けた具体的な方法を検討し、毎年の年次計画を策定します。

4 環境基本計画推進委員会の体制

令和6年度は区域施策編の年次報告書の内容等、推進方法を検討するため、外部の事業者3名と社会環境部会員2名の計5名で構成する、地球温暖化対策プロジェクトチームを設置する予定です。(参考：東海市環境基本計画推進要領)

なお、令和7年度以降の体制については、令和6年度中に検討し決定します。



5 年次報告書

市内の温室効果ガス排出量の算定及び基本方針ごとに設定した取り組みの目標に基づき進捗状況の点検・評価結果を報告書としてまとめます。記載項目は次の内容が考えられます。

<報告書記載項目>

・温室効果ガス排出量

部門ごとに排出量を算定し基準年度からの削減量などを表やグラフなどを用いて記載する。

・取組内容、評価・分析

計画の基本方針ごとに取り組み内容、「取り組みの目標」の項目の数値を記載するとともに分析、評価について記載する。

・次年度に向けた取組内容

取組に対する評価に基づき次年度の取組内容を記載する。

6 年間スケジュール (案)

別紙のとおり

東海市環境基本計画推進要領

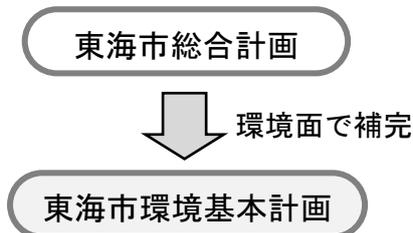
東海市環境基本計画で示された環境ビジョンを実現するため、東海市環境基本計画推進委員会（以下「委員会」という。）は事業の推進に当たり必要な事項を次のとおり定める。

- 1 委員会が必要に応じてプロジェクトチームを置くことができる。
 - (1) プロジェクトチームは、委員のほか、事業に関心のある市民、事業者及びNPOをもって組織する。
 - (2) プロジェクトチームにリーダー及びサブリーダーを置き、部会長の承認を得て委員のうちから委員長が指名する。
 - (3) リーダーは、プロジェクトチームを掌理し、プロジェクト会議の議長となる。
 - (4) サブリーダーはリーダーを補佐し、リーダーに事故があるとき又はリーダーが欠けたときは、その職務を代理する。
- 2 この要領に定めるもののほか、プロジェクトチームの運営について必要な事項は、リーダーがプロジェクト会議に諮って定める。

第 3 次東海市環境基本計画について

1 環境基本計画の概要

東海市環境基本計画は、東海市総合計画を環境面で補完した下位計画と位置づけられるものであり、東海市環境基本条例の基本理念を実現するための指針でもあるもの。



2 計画期間について（案）

第 3 次環境基本計画は、第 7 次総合計画（※）との施策や指標との整合性のとれた計画とするため、総合計画の翌年から 10 年間の計画とする。

	平成 26 年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 15 年度	令和 16 年度	計画期間
第 6 次総合計画								10 年
第 7 次総合計画								10 年
第 2 次環境基本計画								8 年
第 3 次環境基本計画								10 年

※第 7 次総合計画における環境分野に主にかかわる分野別計画案は別紙 1 のとおり

3 策定スケジュール（案）

別紙 2 のとおり

4 現委員会の振り返りの実施

別紙 3 のとおり

めざすまちの姿2 住みやすい環境を保全し、にぎわいと活力に満ちている

施策3 良好な生活環境の保全

資料3 (別紙1)

施策・単位施策の目標

- 衛生的で、だれもが暮らしやすい生活環境になっています。
- 大気汚染、降下ばいじんが低減し、生活に支障を感じないまちになっています。
- 水質汚濁、悪臭、騒音が低減し、生活に支障を感じないまちになっています。
- 環境美化が進み、きれいで快適なまちになっています。

施策の基本方針

大気汚染、降下ばいじん、水質汚濁、悪臭、騒音の実態把握に努め、正確な情報を市民へ提供するとともに、事業者などと連携しながら、発生量の低減を図ります。

また、市民や地域、事業者と協力して、清掃活動や害虫駆除などに取り組むことで、環境美化や日常生活における環境改善を推進します。

市民・地域・団体・事業者などの役割

事業者は、法令などに従って大気汚染、降下ばいじん、水質汚濁、悪臭、騒音の対策に努めます。

また、より多くの市民や事業者が、地域の清掃活動に参加するなど身近な環境美化に努めます。

まちづくり指標

指標名	基準値 (令和4年度)	めざそう値	
		5年後	10年後
3 降下ばいじん量	3.3 t/km ² ・月	3.2 t/km ² ・月	2.9 t/km ² ・月
4 地域の環境面において、生活に支障を感じている人の割合	46.9%	41.0%	35.2%

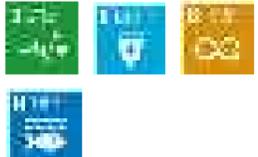
SDGsとの関連性

関連する個別計画など

環境基本計画



単位施策の構成

単位施策	実施手段	成果指標
3-1 大気汚染、降下ばいじんを低減する 	大気汚染を常時監視し、測定数値を市民に公表するとともに、関係機関と連携して改善に取り組みます。 また、降下ばいじんを継続的に測定し、測定数値を市民に公表するとともに、関係機関及び事業者との対策の検討や、事業者への削減要望などの降下ばいじん対策を推進します。	大気汚染(降下ばいじん以外)により、生活に支障を感じている人の割合 降下ばいじんにより、生活に支障を感じている人の割合 降下ばいじん量のうち不溶性成分量
3-2 水質汚濁、悪臭、騒音を低減する 	河川や池の水質調査、環境騒音調査、自動車騒音調査を実施し、結果を公表するとともに、測定数値をもとに関係機関と連携し改善に取り組みます。 また、事業者への悪臭測定を実施するとともに、測定数値をもとに立入調査や改善指導を行います。	土留木川の平均BOD濃度 騒音調査の基準値適合率
3-3 環境美化を推進する 	市民の環境美化活動への参加や環境美化意識の向上を促すため、地域の清掃活動に対する協力や啓発活動を実施します。 また、パトロールを実施することで、ポイ捨てなどの不法投棄を未然に防止するとともに、地域ねこ活動など愛護動物の適切な飼育の推進や、害虫駆除などを行います。	不法投棄、雑草繁茂、動物・害虫により、生活に支障を感じている人の割合

図表、写真等

用語の解説

降下ばいじん量のうち不溶性成分...採取した降下ばいじんのうち、水に溶けない成分(鉄、炭素など)の量。

BOD...Biochemical Oxygen Demandの略称で、生物化学的酸素要求量の意味。水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素量。数値が高いほど水中の汚濁物質となる有機物が多く、水質が悪い。

地域ねこ活動...猫に起因する問題を解決するために、地域住民の合意と協力のもとで、野良猫を適切に飼養・管理しながら減少につなげる活動。

めざすまちの姿2 住みやすい環境を保全し、にぎわいと活力に満ちている

施策4 自然と共生する持続可能な社会の実現

施策・単位施策の目標

- 市民や事業者、行政などが一体となり、豊かな自然を将来の世代に継承し、持続可能なまちになっています。
- 市民や事業者、行政などが、それぞれの役割を担い、協働して地球温暖化対策を進めています。
- 3Rの推進により、ごみの量が減少しています。
- 市民や事業者などが、環境への関心を高め、積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

施策の基本方針

2050年のゼロカーボンシティ実現のため、温室効果ガス排出量の削減に努めるとともに、市民や事業者に対しては、地球温暖化対策の啓発などによるカーボンニュートラルに向けた気運の醸成及び取り組みを推進します。

また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを実践できる市民や事業者を増やすため、循環型社会の形成を目指し、3Rを推進するとともに、環境について学ぶ機会を充実させ、市民や事業者の環境意識の向上に取り組めます。

市民・地域・団体・事業者などの役割

3Rや省エネ活動をはじめとした環境に配慮した行動に努めるとともに、事業者や団体などは、市民に対して、環境について学ぶ機会を提供し、環境意識の向上に協力します。

まちづくり指標

指標名	基準値 (令和4年度)	めざそう値	
		5年後	10年後
5 温室効果ガス排出量の削減割合	19.1%	35.0%	50.0%
6 市民一人1日当たりのごみの排出量	807g/(人・日)	765g/(人・日)	730g/(人・日)

SDGsとの関連性



関連する個別計画など

- 環境基本計画
- 地球温暖化対策実行計画
- ごみ処理基本計画

単位施策の構成

単位施策	実施手段	成果指標
4-1 温室効果ガス削減に向けた取り組みを推進する 	地球温暖化対策を市民や事業者へ啓発し、カーボンニュートラル実現の気運を高めます。 また、率先して公共施設における温室効果ガス排出量の削減を推進するとともに、市民や事業者の取り組みを支援します。	地球温暖化の防止に取り組んでいる人の割合 太陽光発電システムの設置件数
4-2 ごみの減量化とリサイクルを推進する 	循環型社会の形成に向け、3Rについて啓発を図るとともに、リサイクルなどの取り組みを継続し、ごみの減量化とリサイクルを推進します。	市民一人1日当たりの家庭系ごみ(資源を除く)の量 ごみ減量、リサイクルに取り組んでいる人の割合
4-3 環境意識を向上させる 	市民が、自然・生き物を大切に思う気持ちや環境問題への関心を持ち、進んで環境保全のために行動することができるよう、エコスクールを開催するとともに、市民や事業者、団体などが集まり、環境情報を交換し交流する場を設けます。	普段から環境に配慮した行動を実践している人の割合

用語の解説

3R... 発生抑制(リデュース(Reduce);減らす)、再使用(リユース(Reuse);繰り返し使う)、再生利用(リサイクル(Recycle);再資源化する)の3つの頭文字をとったもので、循環型社会構築に関するキーワード。
エコスクール...身近な環境問題についての理解を深め、環境に配慮した行動を積極的に実践できる人づくりを目的として、観察や体験を主体に開催する環境学習講座。

図表、写真等

めざすまちの姿5 安心・安全で快適に暮らせる都市機能が充実している

施策20 安全で快適な移動環境の整備

施策・単位施策の目標

- 道路環境が整い、さまざまな公共交通機関を利用することで、安全で円滑に市内・市外へ移動できています。
- 公共交通機関の利便性が高く、多くの人に利用されています。
- 幹線道路や生活道路が整備され、利便性や安全性が向上しています。
- 道路や橋りょうが適切に維持管理され、安全に利用できています。

施策の基本方針

社会情勢や利用者のニーズに合わせた公共交通ネットワークの整備を計画的に進めます。また、快適に移動がしやすい道路を整備するとともに、道路施設の良好な状態を維持するため、長寿命化や耐震化などの適切な維持管理を推進します。

市民・地域・団体・事業者などの役割

市民は、市内・市外へ移動する際は、自家用車だけでなく、身近な公共交通機関や新たなモビリティの利用に努めるとともに、事業者は、行政などと連携し、公共交通機関全体の利便性の向上に努めます。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和4年度)	めざそう値	
		5年後	10年後
28 市内・市外への移動が円滑にできる環境が整っていると思う人の割合	68.7%	73.4%	78.2%

SDGsとの関連性



illustrated by
Johan Rockstorm and
Pavan Sukhdev

関連する個別計画など

- 都市計画マスタープラン
- 立地適正化計画
- 総合交通戦略
- 地域公共交通計画
- 無電柱化推進計画
- 道路橋長寿命化修繕計画
- 横断歩道橋長寿命化修繕計画

単位施策の構成

単位施策	実施手段	成果指標
20-1 利便性の高い公共交通ネットワークを充実させる   	らんらんバス(循環バス)の利便性の向上に取り組むとともに、鉄道や路線バス、タクシーなどと連携を図り、地域の地理的特性や利用者ニーズに合った公共交通の利用を促進します。 また、先端技術を取り入れ、環境負荷に配慮した新たなモビリティを活用し、目的・時間などに応じた最適な移動手段が選択できる環境整備に努めます。	①らんらんバスの年間利用者数 ②1日当たりの鉄道駅乗降客数
20-2 移動がしやすい道路をつくる  	渋滞緩和など、道路利用者の利便性の向上を図るため、将来の交通量に適した道路整備による幹線道路網の構築を推進するとともに、だれもがわかりやすい案内標識などの充実を図ります。 また、狭あいな生活道路の拡幅整備を進め、移動しやすい道路環境をつくります。	①幹線・補助幹線道路の整備率
20-3 道路施設の適切な維持管理を推進する 	道路や橋りょうの日常的な点検を実施し、劣化状況に応じた修繕を行うとともに、長寿命化や耐震化を図り、安心して道路施設が利用できるよう適切な維持管理を推進します。	①幹線・補助幹線道路の劣化割合 ②長寿命化した橋りょうの割合 ③耐震補強した橋りょうの割合

図表、写真等

用語の解説

- モビリティ…移動や交通、移動手段。
- らんらんバス…市民が利用する地域公共交通のひとつとして、住宅地と駅や公共施設などを結ぶバス。
- 幹線道路…地域の主要な地点を結び、道路網の骨格を形成する道路。
- 補助幹線道路…生活道路からの交通を集めて、幹線道路に連絡する役割を受け持つ道路。

めざすまちの姿5 安心・安全で快適に暮らせる都市機能が充実している

施策21 花と緑につつまれたまちの推進

施策・単位施策の目標

- 公園・緑地の充実や花づくり・緑化活動の推進により、花と緑が豊かなまちになっていきます。
- 公園・緑地が整備され、市民がくつろいだり、遊んだり、憩うことができます。
- 市民や事業者などが、花や緑を育て、身近に感じることができています。

施策の基本方針

市民の憩いの空間となるよう、花と緑につつまれた魅力ある公園や緑地の整備を推進するとともに、だれもが安心して、安全に公園や緑地を利用できるよう公園施設の長寿命化を進め、適切な維持管理に努めます。

また、市民・地域・団体・事業者などと連携しながら、市民などが自主的に花づくりや緑化活動に取り組める環境を整え、花や緑とふれあえるまちづくりを進めます。

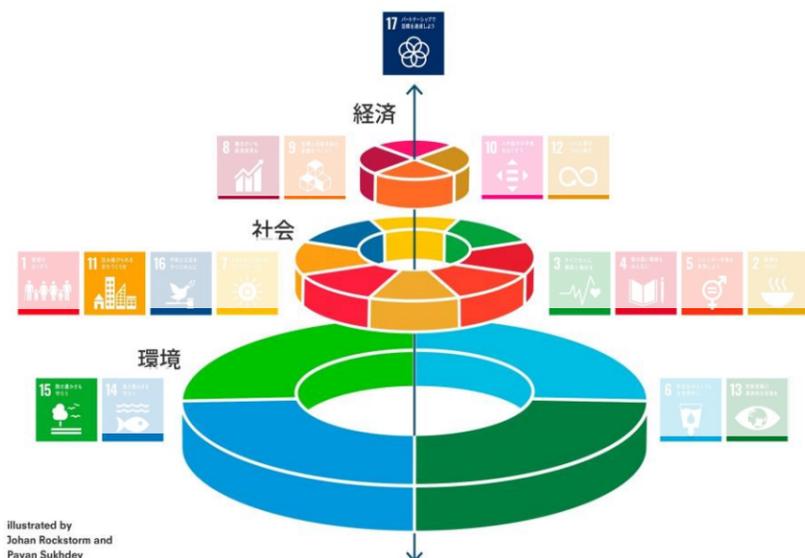
市民・地域・団体・事業者などの役割

身近な公園や花壇、家庭などで自主的に花づくりや緑化を進め、花や緑が豊かな住環境の形成に努めます。また、公園や緑地の魅力を活かし、活気あるまちづくりに努めます。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和4年度)	めざそう値	
		5年後	10年後
29 花や緑が豊かなまちであると思う人の割合	73.2%	77.9%	82.7%

SDGsとの関連性



illustrated by
Johan Rockstorm and
Pavan Sukhdev

関連する個別計画など

- 都市計画マスタープラン
- 緑の基本計画
- 花・水・緑の基幹軸整備基本計画
- 公園施設長寿命化計画
- 公園・緑地施設長寿命化計画
(個別施設計画)
- 森林整備計画

単位施策の構成

単位施策	実施手段	成果指標
21-1 魅力ある公園・緑地整備を推進する  	公園や緑地を快適に利用できるよう、花や緑の適切な管理を行うとともに、老朽化の進む遊具や休憩所など、公園施設の更新によって、利用者の安全を確保します。 また、多くの市民に愛され利用されるよう、特色のある公園や緑地の整備を行い、民間活力による管理運営の導入を推進します。	①長寿命化計画に基づき更新した公園施設の割合 ②一人当たりの公園面積
21-2 花と緑にあふれたまちを形成する  	花のまちづくり運動や啓発事業など、市民や事業者など一体となり、花づくりや緑化に対する意識を醸成し、生活のなかで花や緑とふれあえるまちづくりを推進します。	①地域で管理する花壇に植えた花苗の株数 ②花や緑を育てる、飾るなど、花や緑が身近にある生活を送っている人の割合

図表、写真等

用語の解説

- 花のまちづくり運動…花いっぱいのもちにするため、市民・企業・行政が一体となり、公園や駅前広場における花の植栽や花苗の配布、花壇コンクールの開催などにより、市民の花づくりを支援する取り組み。

現委員会の振り返り・次期計画に向けた意見

現委員会のこれまでの活動を振り返り、感じたことを記入してください。

【部会】（担当部会に○をつけてください） 社会環境・生活環境・廃棄物リサイクル

【振り返り】

※第2次環境基本計画の期間における成果動向や事業の実施内容等について、成果指標の達成状況を参考に、良かった点や悪かった点を記入

【現委員会の運営、議論の進め方に関する意見】

※現委員会の運営、議論の進め方などについて、良かった点や悪かった点を記入

【次期計画に向けた意見】

※次期計画で取り入れてほしいこと、策定の進め方などの意見を記入

成果指標の達成状況

資料3（別紙3：参考）

	成果指標	めざそう値(R5) めざす方向性	基準値 H24	R4	達成状況	備考
1	エコスクールの参加者数	➔	971人	946人	×	平成29年度の参加者数が最多で、1,371人となっている。 新型コロナウイルスの影響あり（R2～R4）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	➔	-	19,113件	○	平成28年度から件数を把握しており、初年度は2,357件となっている。
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	40%	45%	54.70%	×	
4	降下ばいじんの量(市内平均)	3.3 t/km ² ・月	3.9t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月	○	4.3 t/km ² ・月から3.3 t/km ² ・月で推移している。
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.5 t/km ² ・月	2.8t/km ² ・月	2.7 t/km ² ・月	△	基準値よりは改善しているが、めざそう値は達成していないため△としている。 3.0 t/km ² ・月から2.7 t/km ² ・月で推移している。
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.0 t/km ² ・月	4.9t/km ² ・月	3.9 t/km ² ・月	○	5.7 t/km ² ・月から3.9 t/km ² ・月で推移している。
5	環境騒音基準値の適合率	➔	66.70%	66.70%	△	66.7%から80%で推移している。
6	自動車交通騒音基準値の適合率	➔	80%	100%	○	
7	市内の川の水がきれいであると 感じている人の割合	30.90%	26.40%	31.00%	○	29.5%から31.6%で推移している。
8	土留木川のBOD濃度	➔	16.0mg/ℓ	9.9 mg/ℓ	○	
9	大田川のBOD濃度	➔	2.6 mg/ℓ	1.0 mg/ℓ	○	
10	太陽光発電システムの累計設置 件数	➔	1,742件	4,566件	○	

	成果指標	めざそう値(R5) めざす方向性	基準値 H24	R4	達成状況	備考
11	らんらんバスの年間利用者数	➔	290,880人/年	307,202人/年	○	新型コロナウイルスの影響あり（R2～R4）
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	50%	58.30%	50.20%	△	52.5%から49.4%で推移している。
13	地域の清掃活動に参加した人数	➔	18,453人	4,781人	×	令和元年度の参加者数が最多で、16,086人となっている。 新型コロナウイルスの影響あり（R2～R4）
14	地域の清掃活動に参加した団体数	➔	129団体	57団体	×	平成29年度の参加団体数が最多で、112団体となっている。 新型コロナウイルスの影響あり（R2～R4）
15	花や緑が充実していると思う人の割合	78%	72.70%	75.80%	△	基準値よりは改善しているが、めざそう値は達成していないため△としている。 76.7%から74.2%で推移している。
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	➔	2.40%	2.90%	○	
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	95%	90.10%	88.50%	×	89.6%から88.3%で推移している。
18	市民一人当たりのごみの総量	900 g/人・日	995g/人・日	853g/人・日	○	
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	➔	552 g/人・日	460 g/人・日 ※	○	令和4年度より、公共施設から排出されたごみを事業系ごみとしている。 ※従前の分析方法の場合は498 g/人・日となっている。
20	事業系ごみの総排出量	➔	9,753 t	10,124 t ※	○	令和3年度の総排出量が最少で、8,998tとなっている。 令和4年度より、公共施設から排出されたごみを事業系ごみとしている。 ※従前の分析方法の場合は8,531tとなっている。
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	➔	8.00%	6.00%	○	